

## LORC 第4班 2005年度第3回研究会

テーマ：'Measuring Empowerment at the Community and Local Levels'

講演者：Norman Uphoff 教授（コーネル大学）

日時：2005年7月23日（土）13:30-16:00

場所：龍谷大学 深草学舎 紫英館2階 第1共同研究室

出席者(50音順)：(LORC 研究員) 大林稔、斎藤文彦、白石克孝、中村尚司

(LORC 研究員以外) 一條洋子、大野智彦、正楽藍、田中拓弥、矢倉研二郎

まず、会に先立って各参加者が自己紹介を行った。講演の内容は次の通り。

### 講演

- Empowerment を考える際には、まず power の概念をきちんと理解しておく必要がある。また、measurement は理論によって導かれねばならないものであって、出発点ではない。
- 存在論的 (ontological) な省察の必要性。一般的に power は「もの」のように理解され、扱われているが、それは実際に「存在」するものではない。存在するのは、その結果 (consequences) である。一般的な power の概念は、ホワイトヘッドが指摘する二つの誤り、つまり存在しないものに具体性を与えた結果生じる 'misplaced concreteness' と、無生物的存在に生物的特徴を与える 'pathetic fallacy' に陥っている。
- では、実際 power とは何なのか。power を「可能性」(probability) であるとする、ヴェーバーによる定義が有効であるように思われる。ヴェーバーは power を、ある人が社会関係において、(抵抗にもかかわらず、また、それを可能にする power の手段に関係なく) 彼/彼女の意思を達成することが出来る可能性である<sup>1</sup>とする。
- それが示唆するのは：
  - 1) power は所有されるものではない (所有されるのは power の基盤、手段のみ)；
  - 2) power は0か1というものではなく、程度によって示されるものである；
  - 3) power は多くの場合多数の人間の間で作用するものであり、ゲーム理論などが提示するような手段によって単純に計算することは出来ない；
  - 4) power は常に目的と連関している；
  - 5) power は絶対的なものでも相対的なものでもあり得る；
  - 6) power は zero-sum でも positive-sum でもあり得る (e.g. 分権化。一般に中央政府と地方との関係は zero-sum として理解されがちだが、そうであるのは、中央政府と地域住民の意思・目的が異なるなど限られた場合) ということ。

---

<sup>1</sup> the probability that someone in a social relationship will be able to achieve his/her will, despite resistance, regardless of the bases (power means) on which that probability rests.

- では、power を理解しようとするとき、何に焦点を当ててすればよいのか。次の三要素であろう。1) power のリソース ( 経済的なもの、社会的地位、情報、合法・非合法の暴力、正当性、権威 ); 2) いかにしてそれらが用いられるのか ( 効率、持続性、創造性 ); 3) 結果。
- リソースとリソース使用の過程は、いずれを欠いても power は成立しない。したがって、empowerment は、リソースと capability に加えて、好ましい過程と背景 ( コンテキスト ) を必要とする。両者が組み合わさってはじめて意図するものを得ることが出来る可能性が生じるため。
- Empowerment を測るための分析の枠組み

Direct focuses		Indirect focuses	
Assets	Capabilities	Processes	Context
<b>Individual/household levels</b>		<b>Institutional/societal levels</b>	
<i>Power resources:</i> Economic (wealth) Social (status) Political (authority) Informational (knowledge) Moral (legitimacy) Physical (force)	<i>Individual traits:</i> Personal skills Interpersonal skills Experience Confidence Aspiration Energy/persistence	<i>Institutions, roles:</i> <i>Democratic institutions and processes, e.g. election of representatives by majority rather than proportional representation</i> <i>Established rights, e.g. free speech</i> <i>Access to media</i> <i>Fairness of legal system, police, and courts</i> <i>Permeability of decision processes to claims of poor actors, a result of the above factors plus context</i>	<i>Norms, values, etc.:</i> <i>Power distribution among nonpoor actors (sources of resistance)</i> <i>Cultural barriers, e.g. patriarchy, discrimination</i> <i>Capability of state institutions, e.g. effectiveness</i> <i>Social structure, e.g. mobility, segmentation of the poor</i> <i>Social norms of participation, equity, etc.</i>
<b>Group/collective levels</b>			
<i>Power resources:</i> Economic Social Political Informational Moral Physical	<i>Organizational capabilities:</i> For collective action, including self-help  <i>Shared skills:</i> Experience, confidence, aspiration, etc.		

[出典: Norman Uphoff (2005) 'Analytical Issues in Measuring Empowerment at the Community and Local Level' in Deepa Narayan (ed.) (2005) *Measuring Empowerment: Cross-Disciplinary Perspectives* Washington, DC, The World Bank.]

- Self-help が Group/collective levels の項に入っているのは、政府に対して声をあげて何かを要求するだけでなく、政府に頼ることなく住民が自分たちでなにかをするということが重要なため。
- Empowerment を測定・促進するための機会

<b>Interventions for promotion</b>			
<b>Assets</b>	<b>Capabilities</b>	<b>Processes</b>	<b>Context</b>
<i>Investments and policies to increase the power resource endowments of poor persons and households</i>	<i>Training for poor persons Catalytic efforts to strengthen or establish organization among the poor</i>	<i>Policy reforms Institutional changes and reforms</i>	<i>Actions to reinforce positive influences that enhance the power of poor actors Actions to counter negative influences that diminish the power of poor actors</i>
<b>Focuses for measurement</b>			
<b>Assets</b>	<b>Capabilities</b>	<b>Processes</b>	<b>Context</b>
<i>Tools for measuring the various power resources of the poor Comparative studies of the effects of ceteris paribus changes in the power resource endowments of the poor on their ability to achieve their objectives</i>	<i>Evaluations of training strategies and methods for empowering the poor Evaluations of methods for enhancing organizational capacities of the poor Comparative studies of the effects of changes in organizational and personal capacities of the poor on empowerment</i>	<i>Case studies with appropriate quantification of how certain policies or institutions—and changes in these—can affect the empowerment of the poor, including effects of assets, capabilities, and processes.</i>	<i>Case studies to assess how significant are various contextual factors that affect the power of the poor, and what effects certain changes in these contextual factors have on assets, capabilities, and processes</i>

[出典: Norman Uphoff (2005) 'Analytical Issues in Measuring Empowerment at the Community and Local Level' in Deepa Narayan (ed.) (2005) *Measuring Empowerment: Cross-Disciplinary Perspectives* Washington, DC, The World Bank.]

- 主観的な要素(考え、規範、価値など)は「存在」し、power や empowerment を考えるにあたって重要なものである。e.g. 社会資本における「認知的な」側面(規範、価値、考え方、信念など)と「構造的な」側面(役割、規則、前例、手続き)の区別は重要である。「認知的な」ものは法的・公式なものではないが、集団的行動を導き、実際に機能する。それらを測る手段としては、比較研究が有効。

#### 質疑応答

- Power について多く語られていた一方、empowerment についての言及は少なかったように思われる。

Empowerment を考える際には、上の図に記したような assets, (個人・集団の) capability, process, context などを見ることが必要ということ。power を存在論的な見地から語ったのも、そこに目を向けてもらいたかったため。

- 「測る」ことはやはり必要であると思うが、具体的にどうすればよいのか、明確に示されていないかった。

「測る」ことそれ自体が最重要だとは思わない。世界銀行による「測定」は、未熟なものであり、理論をないがしろにして結果だけに目を向けている。一般に「測定」には4つのタイプがあるとされる。1) nominal(名目・分類) 2) ordinal(順序) 3) cardinal(数量) 4) Ratio(比率)。いずれにせよ、「測る」ことによって何かが失われることは確か。(George Bernard Shaw 曰く 'Price of everything, value of nothing'.) その対価を払ってまで「測定」をする必要が本当にあるのだろうか。

- power というのは、非常に難解な概念。それを測ることは可能なのか。

power を測るのは諦めましょうということ。しかし、その背後にある社会資本は測ることができる。しかし、その際には、文化的な差異を考慮に入れた測定が必要。Robert Putnam が想定しているような画一的な社会資本の概念は問題。power の含意は文脈によって異なる。達しようとする目的が様々であるため。

- 一般に4種類の power があるとされる(power over, power to, power with, power within) が、それらについてはどう考えるか。

power について論じるにあたっては有用な考え方であろうが、それら自体が重要であるとは思わない。英語の 'power' は包括的なことばであり、望む事物を得る能力とでもいうような意味。論じたかったのは、power そのものよりも、その土台となる部分に目を向けるべきということ。

- participation と empowerment との関係についてどう考えるか。

ポイントは、empowerment にとって participation が必要であるのかどうかという

ことではなく、participation がいかにして power を可能とするのかということ。

- ペーパーのなかで、少数の人間が組織を支配してしまう傾向、'iron law of oligarchy'についてふれていたが、それを避けるにはどうすればよいと考えるか。

組織を支配することとなる人間は、比較的裕福な「エリート」であることがほとんど。したがって、様々なリソースを上手く全ての参加者へ分配することによって避けることが出来るだろう。

- power の'means'や'bases'、'resource'という語が用いられたが、それらの違いは何なのか。

同じ意味で用いた。'resource'があっても'means'がないから power を行使することが出来ない、というよりは、power の行使を可能とする context と社会的ニーズがあるかどうかということ。

- 社会資本について。社会的ネットワークの測定など、社会学でも非常に近い研究がなされている。社会資本の研究を伝統的な社会学の研究から区別するものは何なのか。

社会学が社会全体の広い範疇を対象とするのに対して、社会資本は、ある特定の分野、すなわち、社会のなかで、効用関数にかかわる、positive な相互依存の関係を扱うもの。

- 社会資本と power との関係をどう理解しているか。

power は社会資本の外に位置するもの。多少重なり合う部分はあるかもしれないが、両者の関係はさほど重要なものとは思わない。Power は巨大な範疇。

以上